

●館内は稲田石の紹介を中心に世界の花崗岩が展示されている。建物の外壁は稲田石に日本伝統の杉縷文様がデザインされている。

●最高裁判所などの日本を代表する建物に使用されているみかげ石の日本最大の産出現場を見学できる。

●主祭神は素戔嗚命(スサノノミコト)の櫛となってヤマタノオロチと戦い、後に妻となったと言われる奇稲田姫命(クシイナダヒメノミコト)

●親鸞聖人が約20年間この寺を拠点として関東各地に布教を行い、1224年に浄土真宗の根本聖典「教行信証」の草稿を完成させた。

●寺院や神社にお参りの際はマナーを守り、大声で騒いだりゴミを残したりしないように注意して下さい。

Vol.55

駅からのふるさと紀行 JR水戸線

いなだ

稲田駅

ふくはら | かさま

福原 | 笠間

●次回は11月27日 ※イラストはイメージです。
「瓜連駅」を掲載予定です。



西念寺 銀杏fest

●11月19日(土)・20日(日)の2日間西念寺の境内においてお葉付き銀杏のライトアップや野菜の販売、ミニコンサートなどが開催される。
※詳しくは稲田禅房西念寺公式HPにてご確認ください。

●平成25年に建て替えられた現在の駅舎は、地元の稲田石を使用した木造の地上駅で駅舎に隣接して市営の「石の百年館」がある。

●相対式の2面2線のホームでホーム間は跨線橋で連絡している。

●稲田石を使用した駅名の看板。

● 散策コース ●

まずは駅名の由来にもなっている稲田石について、駅に隣接する石の百年館で学びたい。基礎知識を仕入れたら採掘現場へ。株式会社想石の採掘現場は「石切山脈」と呼ばれ、壮大な石の屏風が独特の景観を創出している。

稲田駅周辺は寺社仏閣も多い。稲田神社の主祭神は奇稲田姫命(クシイナダヒメノミコト)。縁結び、安産、身体健全、学業成就、眼病治癒、交通安全、商売繁盛、家内安全など御神徳は幅広い。県の天然記念物に指定されている「お葉付き銀杏」がある西念寺は「稲田御

●お問い合わせ／笠間市産業経済部商工観光課 ☎0296(77)1101 ●企画・制作／読茨茨城広告社 ☎029(244)5555

坊」の名前で親しまれている。親鸞聖人は約20年にわたり西念寺を拠点として、関東各地に浄土真宗の布教を行った。境内には親鸞聖人の遺骨の一部が眠るという御頂骨堂など聖人にまつわる多くの史跡があり、駅南側には親鸞聖人を支えた玉日姫の墓がある。社寺などを巡り、お腹が空いたら、笠間給食センターで名物の「笠間いなり弁当」(前日要予約)を味わいたい。また、駅近くには磯蔵酒造がある。御影石の大地から湧き出る水と地元の米にこだわった酒は、稲田散策の思い出を振り返るのにぴったりの土産だ。

磯蔵酒造定番である「福里」の純米酒、吟醸酒、普通酒、当蔵の「きき酒処」でも購入できる。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
http://www.ibaraki-isuzu.co.jp

日本の有名建築物に使用される稲田石の搬出を目的に誕生した稲田駅

笠間市稲田が誇る稲田白御影石。白く美しい色調、均一な組織、抜群の耐久性など、風格と品質の良さから、国会議事堂や東京駅などに使われている。稲田駅はその良質な稲田石を全国に搬出するため、石材業者、鍋島彦七郎の尽力により、明治30年、貨物駅として誕生した。最盛期には1日30両を超える貨車が石を運び出したという。

人が乗り降りできる普通停車場となったのは翌年。現在の駅舎は3年前に完成したもので小さな平屋建てだが、稲田石がふんだんに使われている贅沢な駅舎だ。平成26年には駅に隣接して石の展示施設「石の百年館」がオープンした。石とガラスが調和した外観は美しく、館内では稲田石の特徴や生成過程を分かりやすく紹介している。

11月19日、20日には稲田駅西側にある西念寺で恒例の「銀杏fest」が開催される。「午後市」で新鮮な野菜などが販売され、夕刻になると境内で黄葉した「お葉付き銀杏」がライトアップされる。